

## 平成29年度 第5回 九州森林管理局保護林管理委員会の議事概要

- 1 日時 平成30年2月26日 (10:00~16:15)
- 2 場所 九州森林管理局 2階大会議室
  - (1) 綾森林生態系保護地域の拡充(案)について
  - (2) 平成30年度保護林モニタリング調査項目(案)について
  - (3) 平成29年度保護林モニタリング調査結果について
  - (4) 猪八重地区における保護林の設定について
  - (5) その他



### 3 概要及び主な意見

- (1) 綾森林生態系保護地域の拡充(案)について

#### ① 概要

前回委員会の審議内容を踏まえた綾森林生態系保護地域の拡充(案)が事務局から提案された。審議の結果、事務局提案のとおり了承された。

- (2) 平成30年度保護林モニタリング調査項目(案)について

#### ① 概要

前回委員会の審議内容を踏まえた平成30年度保護林モニタリング調査項目(案)が事務局から提案された。審議の結果、出された意見を十分に踏まえて調査することを前提に了承された。

### ① 主な意見等

- ・シカの被害について、環境省等調査結果も活用しつつ、県など関係機関の保護対策とも連携し、広い視点で対策を講じること。
- ・シカの被害対策については、これまで生産林（造林地）を中心に実施する傾向にあったが、保護林についても確実な実施・検証を行うこと。
- ・保護林ごとに調査目的及び調査結果を踏まえた対策の効果を検証した上で、設定目的に照らした対策を実施すること。例えば、白髪岳生物群集保護林での深刻なシカ被害に対する確実な対策に取り組み、他の範とすること。
- ・森林生態系保護地域は、特に重要度が高いので、他の保護林と同一に扱うべきではない。
- ・希少個体群保護林について、個体として守るか、森林全体として守るか、また、その成因が植林由来か天然更新由来かによって取扱方針を明確にすべき。
- ・評価期間については、次回からは、過去10年間にするなど長期的な状況変化が見えるよう検討すること。
- ・保護林の名称については、守るべき種を主体とした名称にすべき。例えば、国見山ツガ等希少個体群保護林は、ツガを使うよりも自生南限のコウヤマキを名称に入れるべき。

### （3）平成29年度保護林モニタリング調査結果について

#### ① 概要

平成29年度保護林モニタリング調査結果について、今後の保護・管理の方針等の案も含めて事務局から説明した。来年度の第1回委員会において、出された意見を踏まえた管理方針書の変更案を事務局から提案することについて了承された。

#### ② 主な意見等

- ・九州北部豪雨で被害にあった保護林のモニタリング間隔について現地を再確認した上で、「5年」から「3年程度」に変更することを検討すべき。
- ・希少個体群保護林には、林木遺伝資源保存林由来のものと植物群落保護林由来のものがありそれぞれ守るべき範囲が異なる。林木のみか、森林全体か保護対象を明確にすること。また、周辺保護林との統合による生物群集保護林への格上げについても検討すること。
- ・シカの被害対策へ2つ提案する。
  - ア シカの被害レベルに応じた対策を検討してはどうか。

守るべき保護林フィールドの被害の進行を止めるため、例えば、被害レベル4は後回しとし、被害レベル3を4にしない対策か、レベル2を3にしない対策のどちらかについて、費用対効果を見つつ国民に説明可能な基準を設定し、優先順をつけて保護柵の設置等の対策を行うこと。
  - イ 春から秋は、県等と協力して実行することに加え、シカの季節移動等移動経路、例えば夏、冬の行動圏の違いなどを押さえた上で、生息域の縮小を目標にしつつ国有林内の特定地点で囲い込み捕獲など集団的に捕獲する手法も検討してはどうか。

### （4）猪八重地区における保護林の設定について

## ① 概要

前回委員会で指摘のあった隣接するレクリエーションの森の一部を保護林に含めることについて、地元レクリエーションの森協議会等の意見も踏まえて判断するため、来年度も継続審議することとした。

## 資料一覧

【議事次第・出席者名簿】

【資料 1】綾森林生態系保護地域の拡充(案)

【資料 2-1】平成30年度保護林モニタリング調査項目(案)(概要版)

【資料 2-2】平成30年度保護林モニタリング調査項目(案)

【資料 3-1】平成29年度保護林モニタリング調査結果

【資料 3-2】平成29年度保護林モニタリング調査結果一覧表

【参考資料 1】綾森林生態系保護地域における保護林及び保存地区の拡張について

【参考資料 2】保護林モニタリング調査マニュアル

【参考資料 3】平成29年度保護林モニタリング調査業務報告書

【参考資料 4】保護林設定管理要領

平成29年度 第5回九州森林管理局保護林管理委員会出席者名簿

	氏名	所属・役職	
委員	伊澤 雅子	琉球大学 理学部 教授	
	河野 耕三	綾町役場 エコパーク推進室 照葉樹林文化推進専門監	
	木口 実	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	
	佐藤 英章	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場長	
	佐藤 和歌子	特定非営利活動法人 森林をつくろう 理事長	
	中尾 忠規	熊本県 自然保護課長	欠
	浜本 奈鼓	特定非営利活動法人 くすの木自然館 代表理事	
	藤掛 一郎	宮崎大学 農学部 教授	欠
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参事	
	米田 健(委員長)	鹿児島大学 名誉教授	
九州森林管理局	原田 隆行	局長	
	林 視	計画保全部 部長	
	林 友和	技術普及課 企画官(技術開発担当)	
	山崎 準	計画課 課長	
	小原 豊治	計画課 自然遺産保全調整官	
	山崎 泉	計画課 課長補佐	
	田中 和利	計画課 生態系管理指導官	
	松永 雄治	計画課 企画官(森林資源評価担当)	
	中村 雄二	計画課 森林施業調整官	
	佐藤 英也	計画課 計画調整官	
	清田 誠	計画課 経営計画官	
	伊藤 翼	計画課 生態系保全係	
樋口 浩	計画課 行政専門員		
事務局	山本 照光	日本森林技術協会 事業部保全管理グループ	
	高橋 雅美	日本森林技術協会 事業部森林保全グループ	
	植松 優介	日本森林技術協会 事業部森林保全グループ	
	岩切 康二	岩切環境技研(株) 技術部長	
	城戸 美智子	(株)九州自然環境研究所	
	有馬 宏幸	(株)九州自然環境研究所	

(委員50音順、敬称略)